

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年 3月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	( 評価機関で記入 ) 20724000779
法人名	特定非営利活動法人まんてん
事業所名	グループホーム まんてん
所在地	長野県上伊那郡飯島町飯島2880番地1130 (電 話) 0265 - 86 - 8680

評価機関名	福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成21年1月26日

## 【情報提供票より】(21年1月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.5 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,900 円	その他の経費(月額)	25,500 円
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 1月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1		名	要介護2	1	名
要介護3	4	名	要介護4	4	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	木下医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは町中を離れて、背景に中央アルプス、前景に南アルプスの雪を頂いた峰々を望む素晴らしい環境の中にあった。施設長はこの自然を感じて欲しいと話すとともに、笑いがいっぱいあるホームを目指したいと明るく語った。前回の外部評価から1年余りしか経っていないのに、高齢化し、重度化が進み車椅子に頼る利用者が増えてきている現状の中で、職員と一丸となって取り組んできているようなことが素晴らしいと感じた。まず、利用者一人ひとりの思いや希望を把握するために個人の記録方法を工夫したり、介護計画のサービス内容実施を確認する一覧表を作ったりして効果を上げていることである。そして、職員が先頭に立ち懐かしい歌を歌ったりして、明るく元気に過ごそうとしていることである。このような取り組みを通して、利用者にとってかけがえのないホームとなっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘された「利用者の思いや希望について記録して情報を共有したい」という課題は、記録方法を工夫して活用している。また、「災害対策についてのマニュアルの整備や緊急事態に備えての水や食料品等の準備」という課題は、随時対応できるように改善された。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全員で取り組み話し合っ、再点検してきた。例えば防災については、マニュアルが使いやすいようになっているか、水や食料品は十分な準備はあるかなど見直してきた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	警察、消防署関係者も参加した運営推進会議では、活動の報告を中心に話し合いをしてきている。この話し合いの中から、玄関だけでなく裏口にもスロープを設置することになった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族への報告は、毎月「GHまんてん通信」や行事の写真を配布したり、個人の記録や金銭出納帳をコピーしたりして、利用者の生の様子がわかるように工夫している。家族の意見、苦情などについては、家族会という窓口はないが、訪問時の話しかけを大切にしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入り、近所の方に災害時の協力員として支援を受けている。グループホームは町中から離れているため、保育園や小学校に出かけたり、社会福祉協議会の行事に出かけたりして交流している。また、グループホーム内の行事には地域の方々を招き、交流を深めている。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム設立当時から「その人らしく生きて欲しい、安心できるサービスを提供する、責任と誇りを持って仕事をしたい、地域の方々と共に歩みたい」という理念を掲げ、ホーム内に掲示するだけでなく、『GHまんてん通信』に載せて地域に広報している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のカンファレンスや日々のケアを通して理念を確認し、理念に基づいたサービスを心がけるよう職員間で話し合っている。そして、職員それぞれが理念の実践に向けて努力している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームが町の中心部から離れているので、保育園や学校に出かけ交流したり、社会福祉協議会の福祉祭り、演奏会、文化祭などにも出かけ楽しんだりしている。また、ホーム内で行う流しそうめん会、敬老会などの行事には地域の方々を招いたりして、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、話し合ってきた。そして、次のような見直しをしてきた。防災について、利用者にとって危険な物、トイレ介助について、手すり設置などの問題点を徐々に改善してきている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族代表、地域の方々(地区代表、隣組、民生委員、役場関係者)の他に、警察、消防署関係の方々も参加してもらい、地域全体での関わりを大切にしている。このような話し合いの中から、スロープを玄関以外に裏口にも設置することになった。		

グループホーム まんてん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の行事(コスモス祭りなど)に出かけたり、グループホームの行事(流しそうめん会、敬老会など)に参加していただいたりすることを通して、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、『GHまんてん通信』や行事の写真、出納帳などを見せて報告したり、訪問できない家族には、利用者の個々の記録をコピーして送付したりして、暮らしぶりや健康状態など生の様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	設立当初から、利用者が上伊那郡の他の地域の方が多く、家族会結成を呼びかけているが、まだ作られていない。家族を行事に招いたりして、訪問時には意見などを聞くように心がけている。		利用者の家族の実態によるが、家族会結成への働きかけをし(例えばアンケート調査を行うなど)、いろいろな意見や不満、苦情を受け止めるように工夫していくことが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この3年間は職員の異動はないので、利用者にとってもダメージがない。職員の異動がないよう配慮したり、異動がある場合には早く知らせ、対応できるように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の研修センターでの研修などへ出かけたり、法人内の他のグループホームや宅老所での評価を含めた話し合いなどをしたりして、実践につなげるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上伊那郡の他のグループホームとともに相互評価研修会に参加し、訪問見学してサービス向上を目指している。また、法人内での他の施設との訪問、親睦を通して交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者、家族の見学だけでなく、本人の泊まりのお試しを行い、職員や他の利用者と徐々に馴染めるように、家族の理解と支援を得るようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の過去や生き立ちを聞いたり、個人の記録ファイルを見たりして、話を合わせ、ケアに活かしている。また、長い人生経験の中から出てくる職員への指摘も気楽に受け止め、共に支えあって過ごしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者と一緒に生活している中で、記録を医療、夜間、家族からの要望、職員と色分けして記録することにより、職員が共通理解できるように工夫している。高齢化・重度化が進み、過去に出来ていたことが出来なくなったり、意思決定しにくくなったりするため、利用者の思いや意向の把握に役立っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスなどで話し合い、利用者本人の実態を反映した介護計画を立てている。そして、個々のサービス内容を「ケアプラン実施表」に記入して、日々の実践の中でチェックし、確認し合えるようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月に1回、「ケアプラン実施表」などを通して介護計画を見直し、適切なケアに努めている。また、変化が生じた場合にはそのつど見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内に看護師を2人揃え、医療連携体制をとっている。また、受診なども利用者や家族の要望に応じて柔軟に対応できるようにしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望をもとに、かかりつけ医への受診を行っている。また、協力医にはときどき寄ってもらって、受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所当初に重度化した場合についての説明をし、確認表を作っている。また、終末期のあり方についてはその時に応じて説明を行い、本人と家族、かかりつけ医との話し合いで方針を共有するようにしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個人の誇りを大切にして言葉がけをしている。また、記録をとるときには、個人名を出さずに書くように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は大体決まっているが、利用者一人ひとりのペースを大切にして、言葉がけして希望にそった過ごし方ができるように支援している。		

グループホーム まんてん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食前、元気な職員の歌声に合わせて利用者も一緒に声を出している。「信濃の国」が終わるといよいよ食事になる。訪問当日の昼食は、利用者も準備した「いなり寿し」だ。利用者一人ひとりはずっくりだが、介助なしでおいしそうに食べている。「もう一つどうぞ」と促されて、しっかり食べていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表を作って、一週間に2～3回全員が入浴を楽しむようにしている。車椅子の利用者が4人、加齢に重度化してきているので、入浴の介護は2～3人がかりで、男性職員の手伝いが助かるとのことであった。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一日の暮らしの中で、利用者がそれぞれ出来ること、例えば、おしぼりタミ、食器拭き、雑巾ぬい、洗濯タミなどを楽しみながら一緒にやるようにしている。また、季節によって、梅干作りや干柿作りをしたり、庭の畑で野菜作りや草取りを楽しみながらしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町中から離れた所にあるグループホームなので、日ごろは庭で日光浴を楽しんだり、周りの散歩などを行っている。そして、車で買い物に出かけたり、近くの与田切公園で過ごすことができるように支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはチャイムを設置し、日中は鍵をかけないようにしている。そして、外出するような時には、見守り、付き添いができるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署参加の訓練や夜勤時の対応の訓練などをして、災害に備えている。そして、前回指摘された、マニュアル整備、水、食料品などの準備については、改善してきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立によって、栄養バランスのとれた食事がされている。利用者の状態に応じ、きざみやとろみ食にしたりして、摂取しやすいように対応していた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から左に折れて廊下を進むと、特徴のある手すりが両側に備えられ、梁のある高い天井を見上げることができる。食堂、居間、台所、浴室が中央に配置され、利用者の居室と3箇所の洗面・トイレが周りにある。室内では、寝たり、座ったりして過ごすことができ、外の広縁にはベンチがあって日光浴ができるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者が使い慣れた物を持ち寄り、本人が過ごしやすいようにさっぱりした居室になっている		